

専門科目

(心の健康科学コース開講)

【科目名】 心の健康科学総論 (心の健康教育に関する理論と実践)	【担当教員】 宮岡里美 [研究室] E 棟 2 階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 311
【授業コード】 dbmHs 131	[メールアドレス] miyaoka@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～金 12:40-13:30, 他研究室在室時
【配当年】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ※ 本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「心の健康教育に関する理論と実践」について学びます。 他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。「心の健康」は保健・医療・福祉領域で重要な課題です。 《受講のルールに関わる情報》 欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態度で受講していただきたいです。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。	
【講義概要】 多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が ‘心の病’を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法（ストレス・マネジメント）の基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識普及を図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 【一般教育目標 (GIO)】 「健康とは何か？」を国際的定義から説明できる。 ストレスと心身の疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。 【行動目標 (SB0)】 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレスを知り、適切なマネジメントあるいは支援ができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 レポート 8 0 %、授業への参加態度 2 0 %の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 特に指定せず、必要な資料は配布する。	
【講義の参考となる書籍・文献】 ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳／ストレスの心理学／実務教育出版／1991 年／5,872 円 厚生労働省「健康日本 2 1（第二次）」内、「こころの健康」を参照のこと。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	健康心理学とは ストレスとは？	・「健康」の定義 ・演習：精神健康調査票（GHQ 28） ・ストレッサーとストレス反応	WHO：QOL から「心の健康」を考える	15 分
2	ストレスに対する心理的反応	・不安 ・演習：顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感	顕在性不安尺度(MAS)の結果 処理と考察	20 分
3	ストレスに対する生理的反応 ストレスによる身体への影響	・闘争 - 逃走反応：生理的メカニズム ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援	タイプA行動チェック実施と 結果考察	20 分
4	PTSD	・PTSD の定義 ・演習：PTSD チェック ・PTSD の発症要因 ・発症メカニズム ・自然災害と PTSD ・心理学的支援法	PTSD チェックリストから、その 発症要因を理解する。	15 分
5	ストレスによる健康への影響 ストレス関連疾患	・パニック障害 ・うつ ・演習：BDI／SDS ・依存症（薬物、アルコール等）	20～30 代のワークライフバラ ンスをストレス関連疾患から 検討する。	20 分
6	ストレス理論 ストレス耐性	・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す	各学派の考え方から身近なス トレス事例を考察する。 心の支援の実践を試みる	15 分
7	ストレスコーピング 自殺予防	・行動療法・運動療法・認知行動療 ・自己コントロール／心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法	各自の日常生活におけるコー ピング法を考案する。	15 分
8	ライフサイクルとストレス 「健康日本21」にみる「心の健康づくり」	・家庭/学校/職場でのストレス ・児童虐待/いじめ/高齢者虐待を考える	いじめの原因・要因を多角的 に考察する。以上から、「心の 健康づくり」を提言する。	20 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】 ‘いじめ‘や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができることを願っています。
【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】質的研究法特論	【担当教員】氏名 和田剛宗 [研究室] D 棟 1 階
【授業区分】心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 405
【授業コード】h 132	[メールアドレス] y.wada@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 11:00～13:30（月曜日～木曜日）
【配当年】1 年次	【単位数】1 単位
【開講時期】後期	【コマ数】8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし。 《受講のルールに関わる情報》 講義の後半の回では毎回質的研究の論文を 1 編取り上げ、各自もしくはグループで発表を行って研究の内容を紹介していただきます。	
【講義概要】 「発達心理学研究」「心理臨床研究」「質的心理学研究」「カウンセリング研究」等の学術雑誌や書籍に掲載された質的研究に関する論文を購読し、心理学研究における質的研究の方法や結果の整理の仕方、論文の出筆について学ぶ。 【一般教育目標 (GIO)】 臨床心理学や発達臨床心理学における特に質的研究に関する論文を読みこなし、質的研究の方法論や特徴について理解することを目指す。 【行動目標 (SB0)】 質的研究の方法論や分析方法について説明できる 質的研究の結果の整理の仕方について説明できる。 質的研究の研究手法を用いた論文の内容を理解できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 出席状況、レジュメの内容、討論への参加状況などを総合的に判断して評価する（プレゼンテーション・レジュメ 5 0 %、授業への参加状況 5 0 %）。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 特になし。	
【講義の参考となる書籍・文献】 「発達心理学研究」「心理臨床研究」「質的心理学研究」「カウンセリング研究」等の学術雑誌。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション	オリエンテーション		90
2	質的研究の分析方法①（SD法）	質的研究の分析方法①（SD法）	レジュメの作成	90
3	質的研究の分析方法①（グランデット・セオリー・アプローチ）	質的研究の分析方法①（グランデット・セオリー・アプローチ）	レジュメの作成	90
4	質的研究の結果の整理	質的研究の結果の整理	レジュメの作成	90
5	質的研究の文献の紹介と講読	質的研究の文献の紹介と講読	講読する文献の準備とレジュメの作成	90
6	質的研究の文献の紹介と講読	質的研究の文献の紹介と講読	講読する文献の準備とレジュメの作成	90
7	質的研究の文献の紹介と講読	質的研究の文献の紹介と講読	講読する文献の準備とレジュメの作成	90
8	質的研究の文献の紹介と講読	質的研究の文献の紹介と講読	講読する文献の準備とレジュメの作成	90

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
各授業の中で発表した内容について解説を行います。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を育成する」
「高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を育成する」
【教員からの一言】
発表者は紹介する論文を事前に全員に配布し、また内容をレジュメにまとめてくること。
参加者は配布された論文を事前に必ず読んでくること。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 子ども・母性としリハビリテーション心理学Ⅰ（原理）	【担当教員】 西村信子 [研究室] E棟2階 [内線番号] 306 [メールアドレス] nishimura@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 12:00～15:00（火・水・木曜日）
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 h133	
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし。 《受講のルールに関わる情報》 特になし。	
【講義概要】 子ども時代に母親等主な養育者と安定した関係性を構築することは、子どもの健全な発達 の基盤である。不適切な養育環境や母性的ケアの剥奪的環境にある子どもは精神疾患や反社会的な問題のリスクが高い。このような子どもの早期発見・早期支援を行うことは、精神保健の重要課題である。本講義では、アタッチメント理論の視点から、子どもの発達とその支援について教授する。 【一般教育目標(GI0)】 ・アタッチメント理論を理解する ・アタッチメント形成を阻害する要因とその支援を理解する。 【行動目標(SB0)】 ・アタッチメント理論を説明できる ・アタッチメント形成を阻害する要因とその支援を説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 60%、授業参加・意欲 40%の割合で評価する。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 資料を配布します。	
【講義の参考となる書籍・文献】 工藤晋平（2020）支援のための臨床的アタッチメント論-「安心感のケア」に向けて、ミネルヴァ書房。 山下洋（2019）アタッチメントの精神医学-愛着障害と母子臨床、港北出版印刷。 繁多進（2019）基礎講義アタッチメント-子どもとかかわるすべての人のために、岩崎学術出版社。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション・アタッチメントとは	オリエンテーション・アタッチメント研究の流れ	配布資料を読んでおく	60
2	アタッチメントの発達	アタッチメント理論・発達段階と内的作業モデル	配布資料を読んでおく	60
3	アタッチメントのアセスメント	ストレンジ・シチュエーション法 (SSP) とアタッチメントパターン	配布資料を読んでおく	60
4	アタッチメント形成を阻害する要因 (1)	世代間伝達	配布資料を読んでおく	60
5	アタッチメント形成を阻害する要因 (2)	虐待・ホスピタリズム	配布資料を読んでおく	60
6	アタッチメント形成を阻害する要因 (3)	発達障害	配布資料を読んでおく	60
7	アタッチメントの障害	反応性アタッチメント障害・脱抑制型対人交流障害	配布資料を読んでおく	60
8	アタッチメント理論に基づく支援	アタッチメント理論に基づく心理療法・子育て支援	これまでの講義の復習をする	90

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 学期末課題（レポート）に対するフィードバックは、個別に対応します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う科目です。。
【教員からの一言】 子どもの発達や子育ての支援活動に活かせる内容となります。
【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 子ども・母性とリハビリテーション心理学Ⅱ(実践)	【担当教員】 氏名 関 直美【非】 [研究室] 非常勤講師室 [内線番号] [メールアドレス] naomi@hashigakari.org [オフィスアワー] メールにて対応
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 h 208	
【配当年】 2 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 児童虐待等の母子の関係性に関わる社会問題を取り扱います。履修する場合には講義内容をよく理解した上で履修してください。 取り扱うテーマに関しましては、予告なく変更される場合があります。 《受講のルールに関わる情報》 事前にテキストとなるプリントを配布します。授業では輪番制でその授業の中で取り扱う内容についてプレゼンテーション形式で発表を行い、その後に担当教員が解説を行います。レポートや授業で発表した資料などは原則として返却しません。	
【講義概要】 母親の養育態度や母子間の心理的な相互作用が社会的関心の高い愛着障害、発達障害などの問題に対してどのように関連するか学ぶ。 【一般教育目標 (GIO)】 母性や愛着に関わる心理的問題の概要を理解するとともに、問題に対する心理的支援の方法について理解する。 【行動目標 (SB0)】 母子相互作用と愛着の概念について説明できる。 母性に関わる心理的問題について説明できる。 母性や愛着に関わる問題に対する心理的支援の方法について説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 6 0 %、授業への参加意欲・態度 4 0 %の割合で評価する。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 テキストとなるプリントを配布する。	
【講義の参考となる書籍・文献】 特になし。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1		オリエンテーション		90
2	子どもと母性の心理	母子相互作用と愛着形成	授業内で発表する資料の用意	90
3	愛着に関わる心理的問題とその支援	愛着スタイルと愛着障害	授業内で発表する資料の用意	90
4	愛着に関わる心理的問題とその支援	愛着障害の特性と心理的支援	授業内で発表する資料の用意	90
5	母性に関わる心理的問題とその支援	育児不安、産後うつ	授業内で発表する資料の用意	90
6	母性に関わる心理的問題とその支援	母子関係と児童虐待	授業内で発表する資料の用意	90
7	母性に関わる心理的問題とその支援	母子共依存	授業内で発表する資料の用意	90
8		講義の復習とまとめ		90

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
学期末課題（レポート）について解答例を示します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力をや培う」
「高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う」
【教員からの一言】
児童虐待等の社会問題に関わる内容を取り扱います。履修する場合には講義内容をよく理解した上で履修してください。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学	【担当教員】 関 直美【非】 [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号]
【授業コード】 dbmh 134	[メールアドレス] naomi@hashigakari.org [オフィスアワー] メールにて対応
【配当年次】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特に心理学の専門知識を必要としない。 《受講のルールに関わる情報》 積極的態度で受講して下さい。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望む。	
【講義概要】 アイデンティティ（自我同一性）の形成過程をライフサイクルの中で講じていく。中心となる概念は Erik H. Erikson の概念である。私は私であるという感覚をもち、自身の人生をしっかりと自己コントロールして生きていきたいという欲求はどのように形成されるのかについて共に考えていく。多様な価値観の中で自由に生きていくことが可能になった現在社会において、このアイデンティティ形成が困難となっている一側面にも言及していく。 【一般教育目標 (GIO)】 アイデンティティ感覚は多種多様な人とのかかわりの中で形成されていくものであることが理解できる。 【行動目標 (SB0)】 客観的に自己を認識でき、自己コントロール感がもてる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 8 0 %、授業への参加態度 2 0 % の割合で評価する。出席点は評価に含めない。	
【テキスト・教科書】 特に指定せず、必要な資料は配布する。	
【指定図書・参考書】 E. H. エリクソン「自我同一性：アイデンティティとライフ・サイクル」（誠信書房） ISBN コード ISBN978-4-414-40246-9 尾形 和男（編著）「家族の関わりから考える生涯発達心理学」（北大路書房）ISBN 978-4-7628-2520-0 C3011	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	家族の関りと乳幼児の発達	微笑と社会性の発達、ヒトの顔の認識 感情の発達、愛着の理論	新生児と家族との相互関係か らアイデンティティの基盤形成を考 察する。	90 分
2	乳幼児の社会性の発達	社会的参照、心の発達 自我の芽生え、遊びと仲間関係	幼児期の家族・遊び仲間の関 係からアイデンティティを考察する。	90 分
3	乳幼児の思考の発達	ことばの発達 認知・思考の発達	ことばの習得/自分の名前とア イデンティティ形成を考察する。	90 分
4	学校生活のはじまり	認知・思考の発達 仲間関係：ギャングエイジ	‘仲間’ 関係とアイデンティティ形成 を考察する。	90 分
5	思春期・青年期における アイデンティティの形成：同一性	自我の芽生え（自己コントロール） 自我と自己概念	I と Me の関係からアイデンティティ 形成を考察する。	90 分
6	思春期・青年期における 社会性の発達とアイデンティティ	家族・友人関係 進路選択、恋愛	職業と自己実現・アイデンティティ形 成の関係を考察する。	90 分
7	思春期・青年期における アイデンティティ形成の困難：拡散	学校不適応、無気力（学習性無力感） モラトリアム	不適応症状からアイデンティティ形 成の困難を考察する。	90 分
8	成人期・高齢期における アイデンティティの再形成（修正）	家族・職場の人間関係	アイデンティティ形成と修正は生涯 にわたる課題であることを理 解する。	90 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
アイデンティティの形成は青年期に始まるものではなく、誕生まもない乳児が自己の欲求を発信した際に養育者から適切な反応が得られるか否かの時点から既に始まっていることを理解していただきたい。そして、たとえ青年期に形成されたとしても、それで完結するものではなく、“アイデンティティの形成” という課題は軌道修正を繰り返しながら一生涯続くものであることを各自の生涯の課題として受けとめていただきたい。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	ライフサイクル観 成人期の発達課題 ・恋愛・結婚とキャリア形成	ライフコース 多様な価値観	多様な価値観を受け容れ、共に生きる社会の実現を考える。	15 分
2	初期キャリアの形成 ・新社会人のストレス ・女性の社会進出	男女雇用機会均等法 M 字型カーブ ダイバーシティー	男女が共に協力し合う、一個人を社会全体で支えることは社会の発展に繋がることを理解する。	15 分
3	職場・家庭のストレス ・家庭生活と仕事 ・職場におけるメンタルヘルス	ストレスチェック制度 ワークライフバランス 子育てとそのストレス	次世代の育成を家庭、職場の両面でバランスよく行うことを社会全体から検討する。	15 分
4	働く環境の問題 安全・快適な職場環境づくり	労働安全衛生法 ハラスメント、過労死 パニック障害、うつ、自殺対策	職場の物的・人的環境が人の心身に及ぼす影響について考察する。	15 分
5	キャリアの“停滞”への対応 ・長期休業の実態 ・職場復帰（リワーク） ・治療と仕事の両立	リワーク制度、試し出勤 キャリアコンサルティング 労災 障害年金制度	「労災」の定義から、労働環境と疾患発症の関係を考察する。また、その社会的支援法を理解する。	15 分
6	職業・社会生活の変化 ・中年期危機 ・退職	退職とアイデンティティ 心身の変化	「中年期危機」の要因を生物学的、社会的、心理的各側面から検討する。	15 分
7	障害者の就労支援 ・障害の概説と就労支援のポイント	障害者雇用促進法 障害によるキャリア形成における困難 合理的配慮	障害による社会的バリアを可能な限り除去することを検討する。	15 分
8	まとめ キャリア形成の軌跡と心の健康	事例検討	レポート課題 ・事例の検討と考察	120 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
多くの人が、仕事とプライベートの生活が両立しにくい現実直面しています。男女問わず誰もがやりがいや充実感を感じながら働き仕事上の責任を果たす一方で、子育てや親の介護に要する時間や、家庭・地域・自己啓発等に必要な個人の自由な生活時間が持てることは生きていく上で重要なことです。この仕事と生活の調和を図るためにはどうすればよいのかを特に心理学的支援の側面から考えていきます。また、関連する労働法規等にも触れていきます。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 高齢期とリハビリテーション心理学 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	【担当教員】 宮岡里美 [研究室] E 棟 2 階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 311
【授業コード】 dbmHs 209	[メールアドレス] miyaoka@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～金 12:40-13:30, 他研究室在室時
【配当年次】 2 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「福祉分野に関する理論と支援の展開」について学びます。 他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。「高齢期の問題」は保健・医療・福祉領域で重要な課題です。 《受講のルールに関わる情報》 欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態度で受講していただきたいです。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。	
【講義概要】 高齢期の心理社会的課題と必要な支援について講じていきます。高齢期の①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の在り方の変化について科学的知見に基づき説明いたします。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。 【一般教育目標 (GI0)】 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフル・エイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。 【行動目標 (SB0)】 1. 「サクセスフル・エイジング」を心身両面から支援できる。 2. 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。 3. 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 4. 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 8 0 %、授業への参加態度 2 0 %の割合で評価する。出席点は評価に含めない。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 特に指定せず、必要な資料は配布する。	
【講義の参考となる書籍・文献】 高齢者福祉制度の基盤となる「老人福祉法」「介護保険法」「障害者総合支援法」「生活保護法」等の法的根拠は、その都度紹介する。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	・老人福祉法 ・年齢階級別た受療率 ・「寝たきり」予防	高齢社会の実態を理解し、その社会活動への影響を多角的に説明できる。	15 分
2	高齢期の身体機能 ・感覚機能・運動機能の変化 ・機能の低下が日常生活に及ぼす影響 ・機能低下の予防	・高齢者の自動車運転 ・視・聴・味・嗅・触の各機能低下が、日常生活動作へ及ぼす影響。 ・脱水や食思不振の背景要因	生物学的に加齢が感覚・運動機能へ及ぼすさまざまな影響を知り、適切な対応を提言できる。	15 分
3	高齢期の認知機能 ・知的機能/記憶機能の低下 高齢期のパーソナリティ ・高齢期の人間関係/家族関係の変化	・結晶性知能と流動性知能 ・社会的離脱 ・補償を伴う選択的最適化 ・生活の中での支援（家族関係調整等）	「高齢者」の問題行動の背景に知的機能や人格の変化が潜んでいることを説明できる。	15 分
4	喪失体験と心のケア（社会的支援） ・うつ ・回想法	・独居・孤独 ・ソーシャル・コンボイ	高齢者支援のための各地域での社会的資源を検索し、そのサービスを活用できる。	15 分
5	高齢期の精神疾患とその予防 ・認知症とは ・認知症への対応	・演習：MMSE, HDS-R ・共感的理解	認知症スクリーニングテストを実施でき、その評価に対する適切な対応ができる。	15 分
6	高齢者の介護について ・介護者の心理 ・高齢者虐待	・ケア・マネジメント ・地域包括ケアシステム ・高齢者虐待防止法	高齢者虐待の介護者側の要因を知り、その予防のための方策を検討する。	15 分
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・上記の臨床応用	・「二人称の死」の受容 ・自身の死の受容	「キューブラ・ロス モデル」での心理的变化の段階を理解し、受容れることができる。	15 分
8	まとめ ・高齢者の社会参加 ・高齢者の就業支援と経済的自立	・QOL / well-being ・サクセスフル・エイジング ・年金、医療費の問題 ・高齢期の再就職、再学習支援	幸福な一生涯を実現するための最終ステージにおいて、私たちはどのような支援をすべきなのかを総括する。	15 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
高齢者の現状や問題は現代社会において非常に重要です。幸福な一生涯を実現するために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）	【担当教員】 氏名 的場 已知子 [研究室] [内線番号] [メールアドレス] [オフィスアワー] メールにて対応
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 dbmh 136	
【配当年】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 医療現場における心理学の要素を生かした実際の治療についてより深く学びます。 《受講のルールに関わる情報》 守秘義務についての契約書の記入を求めます。受講者の目的（臨床イメージ）を明確に持って下さい。	
【講義概要】 どのようにして個の機能の回復と共に精神機能の回復を促すべきかを学びます。 【一般教育目標 (GIO)】 医療現場における心理学的アプローチの方法を理解すること。 【行動目標 (SB0)】 自らの欠点を理解し、技術を向上すること。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 100%。	
【テキスト・教科書】 公認心理士必携テキスト[学研プラス]	
【指定図書・参考書】	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	精神機能と生活障害に対するリハビリ テーションの真の目的を理解する	まず自分を知ること。その上で他者への アプローチの仕方を知る	事前に配布する資料に解答し ておくこと	60 分
2	精神機能と生活障害に対するリハビリ テーションの介入時期について	介入する時期の違いによりアプローチの 違い	事前に配布する資料に目を通 しておくこと	60 分
3	精神機能と生活障害に対するリハビリ テーションにおける職種の違いの理解 と応用		事前に配布する資料に目を通 しておくこと	60 分
4	心理リハビリの実践 1 (事例 1)	実際の現場でのワークショップを行いま す	事前に配布する資料に目を通 しておくこと	60 分
5	心理リハビリの実践 2 (事例 2)		事前に配布する資料に目を通 しておくこと	60 分
6	心理リハビリの実践 3 (事例 3)		事前に配布する資料に目を通 しておくこと	60 分
7	心理リハビリの実践 4 (事例 4)		事前に配布する資料に目を通 しておくこと	60 分
8	総論	自ら選んだ事例に対してケースレポート をまとめてもらいます	事例を選んでおくこと	120 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートに対してコメントをつけ、返却します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】 自分自身との対話が必要となるため、精神的な問題を抱える方は注意が必要です。
【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅱ（国際）	【担当教員】 氏名 的場 已知子 [研究室] [内線番号] [メールアドレス] [オフィスアワー] メールにて対応する
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 dbmh 137	
【配当年】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学Ⅰ（臨床）を受講している方が望ましい。 《受講のルールに関わる情報》 守秘義務についての誓約書を求めます。	
【講義概要】 心理リハビリの国際的理解を深める。 【一般教育目標 (GIO)】 異文化に対する理解を深め、国際的に活躍できる能力を身につける。 【行動目標 (SB0)】 様々な障壁を乗り越えて行動する力を持つ。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 100%。	
【テキスト・教科書】 リハビリテーション心理学入門 [荘道社]	
【指定図書・参考書】	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	国際的リハビリテーション心理 (アジア)	中国、台湾	配布資料に目を通す	60 分
2	国際的リハビリテーション心理 (アジア)	韓国	配布資料に目を通す	60 分
3	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ)	フランス	配布資料に目を通す	60 分
4	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ)	スイス	配布資料に目を通す	60 分
5	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ)	イギリス	配布資料に目を通す	60 分
6	国際的リハビリテーション心理 (アメリカ他)	アメリカ、カナダ	配布資料に目を通す	60 分
7	国際的リハビリテーション心理におけるジェンダーの問題	国際社会におけるジェンダーや様々な壁について	配布資料に目を通す	60 分
8	総論	レポートをまとめ、評価を行う。	レポートをまとめること	120 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートに対しコメントを返します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】 リハビリテーション心理学における国際的視点を身に付け、広いフィールドワークで活躍できる能力を培えるように。
【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	【担当教員】 宮岡里美 [研究室] E 棟 2 階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 3 1 1
【授業コード】 dbmh 138	[メールアドレス] miyaoka@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 月～金 12:40-13:30, 他研究室在室時
【配当年】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 ※ 本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「保健医療分野に関する理論と支援の展開」について学びます。 《受講のルールに関わる情報》 欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的に受講していただきたいと願います。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、他受講者と意見交換していく姿勢を望みます。	
【講義概要】 ライフサイクルと精神発達及び主な精神疾患についての知識を習得し、保健医療分野に関わる公認心理師として必要な支援の実践法について学びます。 医療技術の進歩により後遺症を残した状態で、または、高齢化により慢性疾患を併せもった状態で、その後生活していく期間は長くなっています。また、“こころの病”には疾病と障害が共存しており、いろいろな精神症状により労働や日常生活、対人関係等生活に障害がでてきます。現代社会は、ほぼ全ての人がライフステージのどこかで疾病と共に生きていく状態に遭遇すると思われる。日常の生活機能を可能な限り保てるよう、家族・地域社会・職場等はどのような支援ができるのかを考えていきます。	
【一般教育目標 (GIO)】 「疾病や障害と共に生きる」ことは本人、家族にとり大きなストレスを伴うことを理解する。しかし、その状態が“イコール不幸”ではないことを認識した上で、社会的・心理的な支援法を考案することができる。	
【行動目標 (SB0)】 「疾病や障害と共に生きる」人を適切に支援することができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 授業参加態度 40%、レポート 60%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。	
【テキスト・教科書】 特に指定せず。資料は配布します。	
【指定図書・参考書】 その都度、紹介します。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	ライフサイクルにおける 成人期中期～後期の特徴	発達課題：生き方の再構成 ・キャリア形成/子供の養育/親の介護 ・育児休暇　・介護休暇	ワークライフバランスへの支援を関連法規も含め多角的に助言でき、実践できる。	20 分
2	ライフサイクルにおける 成人期中期～後期の心身の危機	喪失体験：子どもの独立、定年退職、友人・家族との死別 中年期危機：更年期障害、うつ病	喪失体験が心身に及ぼす影響について理解し、適切な支援が実践できる。	20 分
3	成人期中期～後期の身体・生理的变化 疾病・障害の受容 慢性疾患への社会的・心理的支援	・慢性疾患罹患状況の分析 ・病気休暇　・短時間勤務制度等 ・治療と職業生活の両立支援	加齢が多くの疾患発症の大きな要因であることを理解し、 ‘人生 100 年’を幸福に生きていく支援を考える。	20 分
4	疾病・障害と共に生きる	・障害者支援：内部障害等について ・就労支援/リワーク支援	障害の類別を理解し、それぞれへの適切な社会的支援があることを理解する。	20 分
5	死の受容：キューブラ・ロス・モデル モーニング・ワーク	・自身の“死の受容“のプロセス ・‘二人称の死’の受容	キューブラ・ロス・モデルを説明できる。	20 分
6	障害のある子どもとともに生きる 療育とストレス	療育に伴う家族の生活変化 障害児・者へのいじめや虐待 障害児・者への社会的支援	障害のある子どもの療育に伴う保護者のストレスを多角的に検討する。	20 分
7	施設での長期生活に対する支援 乳幼児期～高齢期まで	施設生活のストレス	施設生活という物的・人的環境が個人の心身に及ぼす影響を多角的に考察する。	20 分
8	自殺予防と傾聴支援 疾病と障害の共存	・自殺の現況とその原因／自殺予防 ・精神疾患の特性	レポート課題 環境からの影響を強く受けて症状が変化しやすいので医療機関との連携が不可欠であり、疾患の状態に個人差が大きいため、その時のストレスや環境等の要因により、一人一人の状態が異なることを理解する。	120 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
精神疾患への支援の場合、疾病の医学的管理のみならず、様々な場面における合理的配慮や工夫によって、障害そのものを軽減することができます。また、「疾病と障害の共存があること」（医学的な疾患が固定されず、長期間にわたって疾病の状態が変化する可能性を残している）という特性があります。環境からの影響を強く受けやすいため症状が変化して症状が固定されにくいこと、個々の状態に個人差が非常に大きいため、その時本人が抱えているストレスや置かれている環境といった要因により、一人一人の状態に大きな個人差があります。支援を行う場合は、その一人一人の特性に十分に配慮していかなければなりません。
この考え方の基本は、なにも精神疾患に限ったことではなく、誰もが疾病や障害・後遺症をもちながらも充実した人生をおくるためにはどう支援したらよいかという問題を解決する手がかりを与えてくれるものだと考えています。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 心理アセスメント特論 (心理的アセスメントに関する理論と実践)	【担当教員】 氏名 和田 政宗 [研究室] C 棟 1 階 [内線番号] 405 [メールアドレス] y.wada@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 11:00～13:30 (月曜日～木曜日)
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 dbmH 210	
【配当年】 2 年次	【単位数】 2 単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 15 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 《受講のルールに関わる情報》 特になし	
【講義概要】 この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③上記 2 つの心理に関する相談、助言、指導等への応用 【一般教育目標 (GI0)】 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。 【行動目標 (SB0)】 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義、心理的アセスメントに関する理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 5 0 %、授業への取り組み姿勢 5 0 % の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 毎回、プリントや資料を配布する。	
【指定図書・参考書】 一般財団法人日本心理研修センター 監修 『公認心理師現任者講習会テキスト』 金剛出版 (3, 800 円＋税) 津川律子 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版 (2, 600 円＋税)	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	心理的アセスメントの意義	心理的アセスメントの意義	授業内容の振り返り	60 分
2	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用①	知能検査① WAIS、WISC	授業内容の振り返り	60 分
3	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用②	知能検査② WAIS、WISC	授業内容の振り返り	60 分
4	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用③	知能検査③ 田中ビネーⅤ	授業内容の振り返り	60 分
5	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用④	知能検査④ 田中ビネーⅤ	授業内容の振り返り	60 分
6	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑤	知能検査⑤ KABC-Ⅱ	授業内容の振り返り	60 分
7	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑥	知能検査⑥ KABC-Ⅱ	授業内容の振り返り	60 分
8	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑦	発達検査	授業内容の振り返り	60 分
9	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑧	質問紙法① YG、TEG	授業内容の振り返り	60 分
10	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑨	質問紙法② MMPI、YG	授業内容の振り返り	60 分
11	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑩	質問紙法③ BDI、STAI	授業内容の振り返り	60 分
12	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑪	投影法① 文章完成法（SCT）	授業内容の振り返り	60 分
13	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑫	投影法② バウム・テスト	授業内容の振り返り	60 分
14	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑬	投影法③ ロールシャッハ・テスト	授業内容の振り返り	60 分
15	心理的アセスメントに関する理論と方法とその応用⑭	投影法④ ロールシャッハ・テスト	授業内容の振り返り	60 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートに対するフィードバックは個別に対応いたします。担当教員へご連絡ください。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
心理学的アセスメントなくして心の支援はできない、と言えるほどとても重要です。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】サイコセラピー特論 (心理支援に関する理論と実践)	【担当教員】氏名 大矢 薫 [研究室] D 棟 1 階 [内線番号] 405 [メールアドレス] ohya@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 大矢：12:50-13:20(月・水-金)
【授業区分】心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】dbmH 211	
【配当年】2 年次	【単位数】2 単位
【開講時期】前期	【コマ数】15 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 《受講のルールに関わる情報》 本講義では、毎回資料を読んでディスカッション・ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。	
【講義概要】 この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①力動論に基づく心理療法の理論と方法 ②行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ③その他の心理療法の理論と方法 ④上記 3 つの心理に関する相談、助言、指導等への応用 ⑤心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整 【一般教育目標 (GIO)】 力動論、行動論・認知論に基づく心理療法とその他の心理療法の理論と方法を理解する。 【行動目標 (SB0)】 力動論、行動論・認知論に基づく心理療法とその他の心理療法の理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用できる。 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 5 0 %、授業内でのディスカッション・ディベート 5 0 %の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 毎回、プリントや資料を配布する。	
【指定図書・参考書】 村瀬嘉代子 『ジェネラリストとしての心理臨床家』 金剛出版 (3,000 円＋税) 乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕 編 『心理療法ハンドブック』 創元社 (3,500 円＋税)	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	心理面接における基本姿勢	心理面接における基本姿勢	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
2	インテーク面接	インテーク面接	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
3	力動論に基づく心理療法の理論と方法とその応用①	精神分析的心理療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
4	力動論に基づく心理療法の理論と方法とその応用②	精神分析的心理療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
5	力動論に基づく心理療法の理論と方法とその応用③	精神分析的心理療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
6	力動論に基づく心理療法の理論と方法とその応用④	精神分析的心理療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
7	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法とその応用①	認知行動療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
8	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法とその応用②	認知行動療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
9	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法とその応用③	認知行動療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
10	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法とその応用④	認知行動療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
11	その他の心理療法の理論と方法とその応用①	森田療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
12	その他の心理療法の理論と方法とその応用②	遊戯療法など	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
13	その他の心理療法の理論と方法とその応用③	ナラティブセラピーなど	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
14	その他の心理療法の理論と方法とその応用④	その他の心理療法	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
15	心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整	心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートに対するフィードバックは個別に対応いたします。担当教員へご連絡ください。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
1つの心理療法に固執するのではなく、幅広く柔軟に学び、身につけてください。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 アートセラピー特論	【担当教員】 氏名 関 直美、 [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号]
【授業コード】 dbmh 212	[メールアドレス] naomi@hashigakari.org [オフィスアワー] メールにて対応
【配当年】 2 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特に芸術的な能力や経験の有無は問いません。 《受講のルールに関わる情報》 経験の有無を事前にお知らせ下さい。	
【講義概要】 1 杯の茶を喫する癒しは世界共通の文化である。茶道はその人の「生」に深く結びつきながら芸術へと昇華される 1 面を持つ。 茶道という枠を通して、人との距離、非言語的対話や癒す心などを学び、日常の診療に活用できるように指導する。 【一般教育目標 (GIO)】 芸術療法の根幹である非言語的コミュニケーションを理解し、心理的な介入技術の基礎を身につける。 【行動目標 (SB0)】 芸術療法を自ら実践することができるようになる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 受講態度 80%、レポート 20%。	
【テキスト・教科書】 芸術療法 [日本評論社]	
【指定図書・参考書】	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	所作を聴く	茶道の基本的な動作を学びながら、5 感を働かせる技術を学ぶ。	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	各 60 分
2	結界を表象する	茶道を通して、空間のありかたについて学び、対人距離を学習する。		
3	心でもてなす	客を迎える心に触れ、自分を客観的に見つめる技術、相対する者への接し方を考える。	自分の在り方を顧みて、客観的にまとめてみる。	各 60 分
4	つかえる心	茶を点て、差し上げる喜びは、つかえる行為であり、自身の喜びにつなげる。		
5	倦怠を癒す	息詰まった時の茶道での癒し方を学ぶ。	自分なりに日常に癒しを見立ててみる。	各 60 分
6	間合いを遅くする	話し言葉とは異なる間合いを知ることによって、自分と他者の心を調整する。	自分のリズムを振り返ってみる。	
7	時を味方につける	1 日の時の流れ、季節など移り行く時を取り入れて、場を作り出す心を学ぶ。	四季に目を向け、日常に取り入れてみる。	60 分
8	そなえる心	技術ばかりを追い求め、すぎることなく、行為そのものの主体性や心境に自由を見失わないために必要な心構えを学ぶ。	レポートの作成と提出。	

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートに対しコメントして返却致します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】 自分なりの技法への展開に向けた知識を得て下さい。
【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 支援コミュニケーション特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	【担当教員】 西村信子 [研究室] E 棟 2 階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 306
【授業コード】 dbmH213	[メールアドレス] nishimura@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 12:00～16:00 (火・水・木曜日)
【配当年】 2 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし。 《受講のルールに関わる情報》 特になし。	
【講義概要】 IT 技術や人工知能の飛躍的な進歩に伴い、わが国の産業構造や労働環境は大きく変わりつつある。そのような現状を踏まえ、産業・労働分野におけるメンタルヘルス問題を理解し、適切な支援コミュニケーションの提供が求められる。 本講義では、公認心理師の学習分野の一つである産業・労働分野に関する理論と支援の実際について教授する。 【一般教育目標 (GIO)】 ・公認心理士に求められる産業・労働分野の基礎知識を身に付ける。 ・労働者や組織が抱えるメンタルヘルスの諸問題を理解し、対応の方向性を見出すことができる。 【行動目標 (SB0)】 ・産業・労働領域のメンタルヘルス対策を説明できる。 ・産業・労働分野が抱えるメンタルヘルスの諸問題とその支援について説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 60%、授業参加意欲・態度 40%の割合で評価する。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 資料を配布します。	
【講義の参考となる書籍・文献】 三浦由美子・磯崎富士雄・斎藤荘士 (2018) 産業・組織カウンセリング実践の手引きー基礎から応用への全 7 章. 遠見書房. 平木典子・松本桂樹 (2019) 公認心理師分野別テキスト⑤産業・労働分野ー理論と支援の展開. 創元社. 大西守・廣尚典・市川佳居 (2017) 新訂版職場のメンタルヘルス 100 のレシピ. 金子書房.	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	オリエンテーション・産業・労働分野 で働く公認心理師とは	オリエンテーション・公認心理師に求め られる役割	配布資料を読んでおく	60
2	職場のメンタルヘルス対策（1）	基本的な法令と心の健康に関する指針	配布資料を読んでおく	60
3	職場のメンタルヘルス対策（2）	自殺予防と危機・職域間の連携	配布資料を読んでおく	60
4	職場におけるハラスメント対応	職場におけるハラスメントの現状と対 策、及び支援コミュニケーション	配布資料を読んでおく	60
5	障害者の就労支援	発達障害者・精神障害者の就労上の課題 と支援コミュニケーション	配布資料を読んでおく	60
6	職場復帰支援	個別支援コミュニケーションと集団リワ ーク	配布資料を読んでおく	60
7	キャリアコンサルティング（1）	再就職と適応	配布資料を読んでおく	60
8	キャリアコンサルティング（2）	キャリア視点から見たワーク・ライフ・ バランス	これまでの講義の復習をする	90

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
学期末課題（レポート）に対するフィードバックは、個別に対応します。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う科目です。
【教員からの一言】
公認心理師試験の「産業・組織に関する心理学」に該当する内容です。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	【担当教員】 氏名 阿久津 洋巳 [研究室] E 棟 2 階 [内線番号] 310 [メールアドレス] hakutsu@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 12:40～13:30 (月～木)
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	
【授業コード】 H177	
【配当年】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 「心理学概論」などの心理学の基礎科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 《受講のルールに関わる情報》 教科書や参考書で予習復習すべき箇所を授業中に伝えますので、予習復習を行ってください。また、授業中に関連する文献を紹介しますので、これを読んでください。授業には遅刻せずに出席してください。	
【講義概要】 犯罪・非行、犯罪被害および家事事件に関する基礎事項を学習したのち、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援を学習する。犯罪に関する事象を学術研究の成果に即して理解する能力を獲得することを目的とする。 【一般教育目標 (GI0)】 犯罪心理学の基礎事項を習得すると共に、犯罪に関する事象を科学的に理解するための視点を獲得する。 【行動目標 (SB0)】 犯罪心理学のトピックについて説明できる。 授業に毎回出席して、与えられた課題レポート期限までに提出できる。 授業で指示された文献を読んで、学習した知識を応用して与えられた質問に答えられる。 授業中の文献を講読する場合は、議論に積極的に参加できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 小テストと定期試験を実施する。授業中の議論に積極的に参加する態度を成績の評価に加える。 レポート 70%、小テスト 30%の割合で評価する。単なる出席は評価に含めない。	
【テキスト・教科書】 犯罪心理学 サイエンス社 越智啓太 著 2012/3/25 ¥2200+税	
【参考書】 犯罪心理学 北大路書店 バートル&バートル著 2006/1/5 ¥6500+税	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	犯罪の生物学的原因論	犯罪と遺伝、条件づけと犯罪	教科書を読む	150 分
2	犯罪の心理学的原因論	犯罪の心理学的アプローチ	教科書と指定文献を読む	150 分
3	犯罪の社会学的原因論	犯罪の原因としての社会	教科書と指定文献を読む課題 レポートを作成する	150 分
4	暴力犯罪	殺人と傷害、大量殺人	教科書と指定文献を読む	150 分
5	性犯罪と虐待	レイプ、子どもに対する性犯罪、子どもの虐待	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150 分
6	犯罪捜査	目撃証言、プロファイリング	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150 分
7	防犯	防犯心理学	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150 分
8	矯正・更生保護	成人犯罪者の処遇の流れ	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 他に支障がない限り、試験答案やレポートは返却する。返却できない場合は、点数を通知する。また、課題に対する解答を考慮して授業の内容と方法に修正を加えることもある。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 学位授与の方針1 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。
【教員からの一言】 いくつかの基礎的な心理学の科目を学部で受講していることが望ましい。
【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク

【科目名】家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	【担当教員】 氏名 大矢 薫 [研究室] D 棟 1 階
【授業区分】 心の健康科学コース開講科目	[内線番号] 405
【授業コード】 H178	[メールアドレス] ohya@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 12:50-13:20(月・水-金)
【配当年次】 1 年次	【単位数】 1 単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8 コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 《受講のルールに関わる情報》 本講義では、毎回資料を読んでディスカッション・ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。	
【講義概要】 この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 ①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法 ②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法 ③上記 2 つの理論と方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用 【一般教育目標 (GIO)】 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法を理解する。 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を理解する。 【行動目標 (SB0)】 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を心理に関する相談、助言、指導等へ応用できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 5 0 %、授業内でのディスカッション・ディベート 5 0 %の割合で評価する。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 毎回、プリントや資料を配布する。	
【講義の参考となる書籍・文献】 竹村和久 編 『社会・集団・家族心理学』 遠見書房 (2,600 円＋税) 一般財団法人日本心理研修センター 監修 『公認心理師現任者講習会テキスト』 金剛出版 (3,800 円＋税)	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法	家族とは？	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
2	家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法	家族システム	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
3	家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法	家族の発達	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
4	家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用	家族支援に関する心理療法	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
5	地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法	コミュニティとは？	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
6	地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法	コミュニティアプローチ 予防的介入	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
7	地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法	コミュニティアプローチ 危機介入	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240
8	地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用	心理職のコミュニティ支援	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	240

※授業日・講義室は随時、配信します。

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】
レポートに対するフィードバックは個別に対応いたします。担当教員へご連絡ください。
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。
【教員からの一言】
個人への支援と同様に家族やコミュニティへの支援はとても重要です。
【講義の中で展開するもの】
課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク